

自転車競技

スペシャルオリンピックス(SO)の自転車競技公式スポーツルールは、全てのスペシャルオリンピックス自転車競技において適用される。国際的なスポーツ組織として、スペシャルオリンピックスは、国際的自転車競技連盟(UCI)の自転車競技ルール(参照：<http://www.uci.ch/>.)を基に、スペシャルオリンピックス公式スポーツルールを定めた。スペシャルオリンピックスの自転車競技公式スポーツルールおよびスポーツルール第 章 総則と矛盾する場合以外は UCI および国内自転車競技連盟(NGB)のルールが採用される。矛盾する場合は、スペシャルオリンピックスの自転車競技公式スポーツルールが適用される。

参考: スペシャルオリンピックス スポーツルール第 章 総則

http://www.son.or.jp/pdf/athlete/program/rule/general_rules.pdf

行動規範、トレーニング基準、医療および安全面の必要条件、ディビジョニング、表彰、上位レベルの競技会への進出条件とユニファイドスポーツを参照してください。

セクション A - 公式種目

以下はスペシャルオリンピックスにおける公式種目の一覧である。

これらの種目は、あらゆる能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。各国プログラムは提供する種目、および必要に応じて、それら種目の運営方針を決定することができる。コーチは、それぞれのアスリートの技術と興味に応じて、適切なトレーニングの提供と種目を選択することに責任がある。

1. 250m タイムトライアル
2. 500m タイムトライアル
3. 1km タイムトライアル
4. 2km タイムトライアル
5. 5km タイムトライアル
6. 10km タイムトライアル
7. 5km ロードレース
8. 10km ロードレース
9. 15km ロードレース
10. 25km ロードレース
11. 40km ロードレース
12. 5km ユニファイドスポーツ タンデム・タイムトライアル
13. 10km ユニファイドスポーツ タンデム・タイムトライアル

セクション B 設備

1. 道路は良い状態で、穴があいておらず、砂利道でないことが望ましい。
2. レースの前には、小石、砂利、土などを取り除かなければいけない。下水管はゴムプレートで覆うべきである。自転車競技のコース内の木々の前やコーナーの柱には大量の干草を置かなければいけない。

SO Summer Sports Rules January 2011
Cycling

3. レースの進行中は交通を遮断しなければならない。レースコースはできるだけ、一般の車両が出入り出来ないようにする。
4. 安全にスタートできるよう、スタートとフィニッシュラインのマーキングはコースの幅全体をカバーしなければいけない。幅は最低 5m であること。
5. フィニッシュラインの前後に 150m の直線コースが必要である：フィニッシュライン手前 100m とフィニッシュライン後 50m。アスリートが安全にフィニッシュラインを通過出来るよう、この 150m 以内には障害となるものや、観客がいてはならない。
6. すべてのレースに同じコースを使用してもよい。レースの距離に合わせてスタートラインを調整してもよい。イベントの距離はおおよそでよい。すべてのレースにおいてフィニッシュラインは同じ位置がよい。コースのレイアウトは約 2~5km の長さで 2.5km が望ましい。可能であればコースには緩やかな上り坂があればよいが、全員が完走できないほど難しいコースはよくない。コースは常に周回コースでなければいけない。往復のコースは安全性の観点から、非常に難しいコースである。
7. UCI パラサイクリング・ルールに則り、視覚に障害のあるアスリートはパートナーが運転するタンデム自転車の上に乗り、競技を行うこととする。

セクション C 用具

1. アスリート、ユニファイドスポーツ・パートナー、コーチはトレーニング、および競技会で自転車に乗る際、必ずヘルメットを着用する。
ヘルメットは必ず開催国の国内自転車連盟の安全基準を満たしているものを使用する。
2. すべての自転車は開催国の国内自転車連盟の安全基準を満たしているか、トレーニングや競技の前には必ず検査すること。NGB のルールに無い改造自転車を使用する場合は、その自転車が適切なものであるかを競技委員会の責任で判断すること。改造自転車はリカンベント、大人用 3 輪車、アウトリガー、他に承認されている自転車も使用することができる。イベント開催者側に適当な状態でないと、判断された自転車は参加を拒否されることもある。自転車の状態が条件を満たしていない場合、アスリートがイベントに参加できないこともあり得る。
3. 自転車が適切なものであるか、その日の最初のイベントの前に公認ライセンスを持っているメカニック、又は資格を持っているサイクルショップのメカニックが検査をするべきである。どんな一般的な自転車でも安全基準を満たしていれば乗ることはできる。
4. コースの周りに修理用の場所を設けるとよい。スタート/フィニッシュエリアの近くに機材ピットを最低 1 か所用意すること。
5. レース中は資格を持っている医療関係者がイベント設備にいなければならない。レース・主催者は緊急事態用の連絡手段を持つべきである。設備に緊急車両を待機させる事を推奨する。
6. ロードレースでは自動車又はオートバイが安全な距離を保ちながら先頭の競技者の前を走るとよい。

7. ロードレースやタイムトライアルでは最後尾の競技者の後ろをオートバイ又は自動車でも走ってもよい。
8. アスリートは機械的な故障が発生した場合、レースを完走するために、必要とあれば、自転車の一部、もしくは自転車ごと取り換えてもよい。その場合の補助は許可される。競技者が衝突または機械的な故障やパンクの後、再度自転車に乗る際、補助者は3メートルまで競技者の自転車を押してもよい。競技者は自転車なしで前に進むことはできない(順位を下げられる、もしくは失格となる)。衝突、パンクや機械的な故障の際、競技者は自転車を担ぎフィニッシュラインまでコースを走ってもよい ユニファイドスポーツタンデム・チームの場合はフィニッシュする際、両方の競技者 - が自転車に触れていないといけない。
9. 競技者は常に少なくとも片方の手をハンドルに置くこと フィニッシュするときでも。
10. ラジオ/無線機の使用 競技中、選手は他の選手やコーチとのコミュニケーション目的で無線機を使うことも持つことも許されない。
11. レース中もしくは固定機器以外のトレーニングではいかなる形式のヘッドホンの使用も禁止されている。聴覚障害のある選手においては、補聴器やそれに順ずる器具を使用してもよい。

セクション D 人員

1. テクニカルディレクター(国内の自転車競技連盟競技会経験があること)
2. 運営委員長
3. 競技委員長
4. 運営委員 a)テクニカルディレクター、b)競技会委員長、c)競技委員長を含む
5. テクニカル委員会
6. スターター
7. 経験のある2名がエントリーナンバー、正しいナンバーの位置、車番の確認、ゼッケン、正しいスタート順について責任をもち確認する。コンピューターチップと登録選手の一致を確認する。
8. ホルダー(競技者が両足をペダルに置いたまま、まっすぐな姿勢を保てるようサポートをする。ホルダーはいかなる場合でもスタートラインから競技者を押しはならない。競技者が選択すれば、片足、もしくは両足を地面につけてスタートしてもよい)
9. 審判長(フィニッシュラインに立たなくてはならない)
10. 副審判長、もしくはタイムキーパーを補佐する役員(フィニッシュライン付近にいない)
11. 自転車メカニックの公認ライセンスを持つ技術者、または資格を持っているサイクルショップのメカニックと適切で必要不可欠な工具
12. コース・マーシャル/係員(コース内の全ての交差点に立って競技者を誘導し、車や歩行者がコース内に入らないようにする)
13. 適切な救急用具を持つ有資格の医療関係者

セクション E 競技ルール

1. ディビジョニング

- a. スペシャルオリンピックスの自転車競技はいかなるレベルのアスリートでも参加できるようにする。アスリートはエントリータイムおよび/または予選イベントによってふさわしいディビジョンに分けられる。
- b. 予選ロードレースはアスリートの自転車競技能力を決定するために行われ、結果的には、競技会で適切なディビジョンに配置するためである。
 - 1) ロードレース 全ての距離のロードレースのディビジョニングは5kmロードレースで行う。
- c. 予選のタイムトライアルは競技者のタイムトライアルでの能力を決定するために行われ、ディビジョンにおける適切な配置のために位置づけられる。
 - 1) 競技者の参加イベントによって、500m、1km、5kmのタイムトライアルが行われる。
 - 2) アスリートのロードレース最終記録が事前に行われたディビジョニング結果よりもアスリートが早いディビジョニングで走れると判断された場合、その後に行われる決勝のディビジョンを変更することもある。コーチには、アスリートのディビジョン変更の結果が事前に通達される。
- d. タイムトライアルとロードレースの両方に参加するアスリートは、時間的に可能であれば、競技委員長や大会主催者役員らの判断で両方のイベントの予選レースに参加してもよい。

2. ゼネラルルール

- a. タイムトライアルは、タイムを競う個人の競技である。
 - 1) 競技者は30秒から1分間隔でスタートすること。
 - 2) 競技者は止まった状態からスタートすること。競技者はホルダーに支えられたのち、前に押しだされることなくホルダーから離されること。同じホルダーがそのディビジョン全員に同じようにこの作業を行う。競技者が希望した場合、片足、もしくは両足を地面につけてスタートしてもよい。
 - 3) コースレイアウトやコースの状態、競技者の能力差の幅やその他の競技会の安全性に影響するいくつかの要因を加味し、競技委員長や主催者側の裁量によりタイムトライアルのスタート順は最も早い競技者から最も遅い競技者の順、または最も遅い競技者から最も早い競技者の順に行く。
 - 4) 改造自転車の使用はタイムトライアルの競技のみ許可される。競技委員長が競技者数、コースの状態、そして競技者のレベルを基に2輪の自転車と改造自転車と一緒に競えるかどうか決定する。
- b. ロードレースは、集団でスタートする種目で構成される。
 - 1) 周回コースを複数回周るロードレースでは、全員リーダーと同じラップ/周回レースを終了し、各自の平均ラップタイムを計算し、これを公式タイムとする。審判が同コース内の競技者にタイム差がありすぎると判断した場合、大会委員長とルール委員会がどのように対応をするか検討する。ロードレース決勝(集団スタート)ではタイムを記録しない。賞は着順のみで決定される。ロードレース決勝ではオネスト・エフォート・ルールは適応されない。

- c. 競技委員長から特別許可がない限り、ヘッドコーチや他のチーム関係者は車や自転車などでレースに後ろからついて行ってはいけない。コーチはコースのサイドラインから指導してもよい。
3. スタートの合図は、ピストルかホイッスルで行う。
 4. フィニッシュは、フィニッシュラインを通過した順番で決定する。
 5. コースの全長が 2.5km 以上である場合、複数のディビジョンが同時にコースを使用することができる。ディビジョンは 1 分、2 分、又は 3 分間隔でスタートする。
 - a. 競技者はエン트리ナンバーを審判長の指示にしたがって身につける。
 - b. レース前に、競技者はコースでウォーミングアップや下見ができる。よい。
 - c. 自転車の前輪がフィニッシュラインを通過した時点でレースは終了とする。

セクション F ユニファイドスポーツ 自転車競技

1. ユニファイドスポーツ タンデム・タイムトライアル
 - a. 種目
 - 1) セクション A - 公式種目を参照
 - 2) 競技委員長がどの距離の種目を行うかを決定する。
 - b. アスリートもパートナーもタンデムのパイロット・ポジション（前）もしくはスターカー・ポジション（後）のどちらについてもよい。UCI パラサイクリング・ルールに則り、視覚に障害のあるアスリートはパートナーがパイロットするタンデム自転車の後ろに乗ることとする。
2. ディビジョニング
 - a. ユニファイドスポーツ タンデム・タイムトライアルの正確な得点を得るため、イベント当日に予選競技を行うとよい。
 - b. 予選競技には決勝競技に参加する 2 人（パートナーとアスリート）が参加しなくてはならない。
 - c. 予選はセクション E.1. ディビジョニング（例：予選の距離は 500m もしくは 1 km がよい。）で行うこと。
3. スコアリング/ルール
 - a. タンデム・タイムトライアルの得点は他のトライアルと同じである。
 - b. ルールはセクション E.2. 一般ルールにあるタイムトライアルルールと同じである。

< スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを実施するに当たっての留意点 >

スペシャルオリンピックスの正式なスポーツプログラムとして活動する場合には、事前に最寄りの地区組織事務局、又はスペシャルオリンピックス日本事務局にご連絡ください。